



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「世界とともにワイズメン」
- アジア会長主題 「100年を越えて変革しよう」
- 東日本区理事主題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」
- あずさ部部長主題 「道を拓く～愛と協力によって」
- 東京西クラブ会長主題 「わからないこと、言いたいことは、何でも声に出しましょう！」

2022年6月号

NO 549

わたしを強めてくださる方のおかげで、わたしにはすべてが可能です。

新約聖書 フィリピの信徒への手紙 4章13節

年度を振り返って

書記・本川悦子

今年度もコロナに始まってコロナで終わろうとしています。

一昨年のように非常事態宣言は出なかったものの、感染者数があつという間に4ケタになってしまいました。

東日本区からはWEBで例会を開くように推奨されました。2020年10月、渡辺大輔さん(東京武蔵野多摩)に講師で来ていただきIT講座を開きました。

その後、感染が治まらず、感染者数が増大したのでZOOM例会を検討しました。

2021年4月から田中博之さん(東京多摩みなみ)などの応援をいただき、ハイブリット例会、東日本区大会のパブリックビューイングを試みました。

慣れないWEBの扱い、費用のことなど話し合っってやっと開設にこぎつけました。

毎月例会を行なっている杉並区の施設のオンラインの環境を

確認したところ、なんとWi-Fiが飛んでいないことが分かりました。これではZOOMは使えませんが、会場が閉鎖されないかぎりリアルで例会を開くことにしました。

寒い冬、暑い夏でも窓は開け放しです。寒い時はコートを羽織って、暑い時は扇子で扇いで例会でした。こんな環境なのに、メンバーは月に一度お互いの顔を見て、おいしいお弁当を食べるのを楽しみにして、無理をしないで集まりました。

気が付いたら今年度の出席率は99%というびっくりするような結果となりました。

次年度はコロナが収束することを祈りながら、たくさんのお客様をお迎えして楽しい例会を開き、結果として新しい方の入会につながれば良いと思います。

WHOウォーク野川シリーズ 古くて新しい“調布”



WHOウォーキング野川下りシリーズ③は、いよいよ調布市に入ります。これまで一度も歩いたことのない、武蔵野の森公園と、調布飛行場、新撰組局長・近藤勇のふる里、東日本最古の国宝像のある深大寺を野川で繋がります。

期日は、6月25日(土)です。

詳しくは、P5のご案内を

東京YMCAの機関誌『東京YMCA』にWHOの3月ウォーキングが掲載されました。発行部数は4000部です。毎月のウォーキングの案内は東京YMCAのホームページで見ることが出来ます。こちらはカラー写真です。

クラブ役員

- 会長 鳥越 成代
- 副会長 吉田 明弘
- 書記 本川 悦子
- 会計 石井 元子
- 担当主事 横山 弥利

5月の記録		ニコニコ	4,950円
在籍者数 12人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド	160円
出席者数 11人	コメント 1人	ファンド残高	113,628円
メーキャップ 0人	ビジター 4人	ホテ校ファンド	15,700円
出席率 100%	ゲスト 2人	ホテ校残高	82,250円
内Zoom参加 0人	出席者合計 18人	WHO参加者	40人

6 月例会のご案内

強調テーマ：IBC・評価 YMCA リエゾン 次年度計画

年度末になりました。今年度の総括と次年度の活動について共有するためのクラブ総会を行います。また、恒例となった東京 YMCA ホテル専門学校留学生に対する支援金の贈呈式を行います。

ロシア軍の侵攻によって亡くなられた人々、怪我を負った人々、国内、国外に避難せざるを得ないウクライナの人々を心に留めつつ例会に参加したいと思います。

日時：6月16(木) 18:45~21:00

会場：東京YMCA山手センター 3F

03-3202-0321

新宿区西早稲田 2-18-12

担当：C 班

HAPPY BIRTHDAY 該当者なし

受付 河原崎和美
司会 神谷 幸男
鳥越 成代会長
一 同
神谷 幸男
鳥越 成代会長
鳥越 会長
留 学 生

開会点鐘
ワイズソング
聖句朗読・祈禱
ゲストとビジター紹介
留学生奨学金贈呈式
留学生紹介と一言

会食

役員交代式 司式 神谷 幸男
2022年度クラブ総会 議長 鳥越 成代
ハッピーバースデー
諸報告
YMCA 報告 横山 弥利
ニコニコ 一 同
閉会点鐘 鳥越 成代会長

— 5 月事務会報告 —

日時：5月26日(木)

17:00~18:45

会場：ウエルファーム杉並

出席者：石井、河原崎、篠原、
高嶋、本川、村野、吉田

< 報告事項 >

①5月例会について感想を話合った。

②WHO 5月例会にクラブから3人の参加が報告された。

③5月会計報告を承認した。例会でディスタンス確保のため大集会室を使用したため、会場費が対前年比較で増額している。

④あずさ部第3回評議会(長野)に6人が参加した。プログラムも充実し、年度最後の評議会にふさわしかったと報告された。

< 協議事項—例会関係 >

▲6月例会

担当：C 班

(神谷、河原崎、横山)

会場の変更。6月の例会と事務会はホテル学校・集会室で行う。クラブ総会、役員交代式、ホテル学校留学生の奨学金贈呈式を行なう。司会は神谷さん、役

員交代式の司式は大野さん。

②ホテル校ファンドの不足分は通常会計から補填することにした。

③総会資料は、副会長が作成する。6月例会は、内輪の会となりがちであるが内容的には、クラブ活動が凝縮されている。ビジター、ゲストを積極的に意識しようとの発言があった。

▲7月例会

担当：A 班 (大野、村野、篠原)
卓話は花輪豊子さん(東京八王子・花輪宗命さんのパートナー)卓話テーマは地域における国際理解。

▲8月(納涼例会)

担当：B 班 (吉田、石井、鳥越)
< 協議事項—例会以外 >

①新年度各月の例会担当者を決めた。

A 班—大野、村野、篠原
(7・10・1・4月)

B 班—吉田、石井、鳥越
(8・11・2・5月)

C 班—神谷、本川、河原崎、
横山 (9・12・3・6月)

担当者だけでは会場づくり、受

留学生紹介

本年度のホテル校奨学生は Nguyen Quang Thai (グエン・クアン・タイさん)ベトナム出身と Sundara Vikhannavong (スンダラ・ウ・イカンナウ・ウイさん)ラオス出身です。詳しいお話をご本人からお聴きしましょう。

付、卓話者との打ち合わせなどをまかない切れないため、担当外でも可能な人は早めに来場して応援する。

②6月11日(土)夜、行なわれる「甲府やまなみクラブ」の設立総会に吉田さんが出席する。

③6月4日(土)に開催される東日本区大会(宇都宮)には、神谷、篠原、高嶋、本川、吉田が ZOOM 参加する。

④当クラブが担当する新年度第1回あずさ部評議会(7月16日)の、会食・懇親会、会場、会費が未定になっており、協議の末、会場は東京山手センターに決めた。その他は、至急決定する。
(書記・本川悦子)



卓話の氷室幸夫さんを囲み、ビジター、ゲスト、メネット、メンバー、みんな笑顔

外郎売、歌舞伎十八番、そして — 5月例会報告 —

5月例会は、5月19日(木) 定例会場で行なわれました。

卓話者は氷室幸夫さん。法律の専門家ですが、趣味が高じて俳優もされています。卓話は『外郎売にまつわる話と、健康法としての外郎売の口上朗読について』。

「ういろう」には、和菓子の「ういろう」と、家庭菓子の「ういろう」がある。菓子の方は、名古屋、小田原、山口他、全国各地に名産としてのういろうがある。菓の方は、「外郎」という名の唐の人が来日して、帝に参内したとき持参し、帝から「頂透香」という名を賜り、評判となり、その子孫が最後に北条早雲に招かれ小田原に来住し、以来、外郎家は、小田原に「ういろう」の本店を構え、お菓子と菓の「ういろう」を販売して現在に至っている。

二代目市川團十郎が声が出なくなった時にこの菓を服用したら、回復したので、お礼に「外郎売り」の呼び込み口上を入れた演目「外郎売」を創作し演じ、人気となり、ついには市川家のお家芸「歌舞伎十八番」の演目に加わったという経緯がある。

シニア世代の健康法として、身体的運動以外に、外郎売の声出しは、口角筋を鍛える口腔機能トレーニングに繋がり、声出しで脳機能も活性化し、認知症予防にも繋がる等の効果があり、外郎売の声出し(朗読)を推奨された。この口上は滑舌練習になる早口言葉

として、アナウンサーや役者の発声練習に使われている。ここから、氷室先生の発声教室。

今、クラブでは聴こえる、聴こえないかが大問題。事務会でもマイクを使いますが解決しません。聞こえなくて遠慮する人もいます。しかし話す側にも問題があるのです。高齢のためか、声が小さい、発声がハッキリしない、それに“マスク”です。

外郎売以外に口腔機能トレーニングとして「あいうべ体操」を紹介された。大きく口を開けて大きな声で「アイウエオ」と言いますが、この時“エ”を舌を出して“べ”というのです。練習してから渡された口上の台本を意識して素読。

「だれかやってみませんか」と促され、音読ボランティアで心得のあるメンバーの篠原文恵さん、謡をやられるビジターの山本英次さんが挑戦して大きな拍手を受けました。

良い呼吸法で発声することは脳トレにもなる「健口体操」。

口腔機能の衰えを知るためにペットボトルに水を入れ唇でくわえる、口輪筋のチェック法も学びました。(吉田明弘)

参加者:<メンバー>石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、横山、吉田、<メネット>神谷、<ゲスト>氷室幸夫(卓話者)、木村禮子、<ビジター>比奈地康晴(東京)、長谷川あや子・山本英次(東京八王子)、樋口順英(東京グリーン)

■5月、ホテル学校の1年生はベッドメイクをはじめロビーサービスやフロント業務をホテル・ニューオータニで、レストランサービスについてはホテル・メトロポリタンで、ホテルマンに教わる授業がスタート。夏には国内旅行需要を受け入れるリゾートホテルで実習を行います。

■「ウクライナ緊急支援募金」は戦争長期化により期間を延長し、8月末を期限に第二次募金の受付を開始。ウクライナ YMCA と近隣諸国の YMCA が連携して行っている避難民への人道支援に加え、日本に避難するウクライナの人々の生活支援のために用います。すでに日本 YMCA 同盟が中心になり、日本に避難を希望する約 100 人の避難民を受け入れ、来日後の生活、教育、就労などトータルな支援を行っています。東京 YMCA には 5 月 16 日現在 8,031,482 円の募金が寄せられています。

■5月21日「第19回東京 YMCA 会員大会」がハイブリッド形式で開催。会場の山手センターとオンライン、合わせて 73 人が出席し、開会礼拝に続く第 2 部は上田晶平会員部運営委員長の挨拶で始まり、2022 年度の会員部運営委員に 25 人が推挙されました。また liby の活動拠点を 7 年にわたり提供された岸野憲氏・眞理氏に「Volunteer of the year」の感謝状が贈られ、特に活躍した 4 人のユースリーダーが「Youth Volunteer of the year」として表彰を受けました。第 3 部では、「これからの東京 YMCA をともに考える」のテーマのもと、8 つのグループに分かれて分団協議を行いました。最後に、松本数実国際・総合教育事業統括からウクライナ支援活動の報告があり、Viktor Serbulov ウクライナ YMCA 総主事もオンラインで登壇し、東京 YMCA 会員へ感謝のメッセージをいただきました。

担当主事 横山弥利



— あずさ部評議会報告 —

5月14日(土)、第3回あずさ部善光寺御開帳評議会が開かれました。会場に直接集まって協議する機会は2年ぶりでしょうか？

会場のホテルでは十分に距離をとって席が用意され、ワイズソングには東京八王子の並木信一さんのハーモニカ伴奏で、あずさ部らしい和やかな会が始まりました。

議案第3号まで承認を受け、各事業主査、クラブ会長の報告等が終わり写真撮影はプロである標克明さんの指導でバッチリ！完璧な撮影が終了。

懇親会は長野クラブ推薦のママさんチームによるハンドベルが流れるなか着席するという優雅な演出、善光寺御住職でもある福島貴和さんの軽妙な司会でご開帳にまつわる裏話を伺い、ご馳走を頂きながら、今度は中学校の教師がご本業という落語家さんの小話にも笑いがあふれ楽しい評議会の日となりました。

久しぶりのリアル例会のチャンスなので、わが東京西の女性メンバーは前日から長野入り、東山魁夷美術館では、混雑した東京では考えられないほどゆったりと鑑賞し、評議会の前に善光寺を拝観、電柱のない参道に花々が植えられ長野県民のおもてなしの心を頂きました。クラブからの参加は石井、河原崎、鳥越、本川、吉田、篠原の6人でした。

(篠原文恵)

古くて新しい“調布” — 6月WHO案内 —

野川下りの前半の締めは調布です。B29の空襲、文化年間の農村、太平洋戦争、戦後復興期、幕末、白鳳時代、そして現代の物語に出会えます。

期日:2022年6月25日(土)

コース:JR 武蔵境駅—西武多摩川線多摩駅—武蔵野の森公園—調布飛行場—近藤勇のゆかりの地—相曽浦橋、大沢の里—御塔坂橋—深大寺<バス>—JR 吉祥寺 or 京王線つつじヶ丘駅

集合・出発:JR 武蔵境駅中央改札前南口 10:00

解散:深大寺観光案内所前

14:00 頃

携行品:名札、マスク、弁当、飲料水、雨具、パンフレット「野川マップ」

参加費:300円、施設入園料 200円。初参加の方は、名札 200円

*7月、8月は夏休みです。

野川水辺の道を歩く — 5月WHO報告 —

WHO ウォーキング 5月例会は、5月28日(土)、野川下りシリーズ③として、小金井市滄浪泉園から、三鷹市、調布の境まで歩きました。

JR 武蔵小金井駅からバスで滄浪公園に向かいます。参加者は40人でしたが、通常利用しているお客さんの迷惑を避けるため、時間をずらして乗車しました。

滄浪泉園は、犬養毅首相と親し

都立武蔵野の森公園“ひろっぱ”。大きなトウカエデの木の下でお弁当を広げました。涼しい風が通り過ぎていきました

い財界人の別荘でした。

先月訪れた国分寺の殿ヶ谷戸庭園が同じ国分寺崖線にあり明るく解放的なのに対しこちらは、崖の道も厳しく池も森も暗く、それだけに深山の趣がありました。

野川は前回解散した貫井大橋から歩き始めました。川の幅は約20m。水流は3mほど。水流と護岸の間は草が茂り、歩けます。ここから暗渠部分以外は沿道を歩いたり、川辺に降りて小径を行ったり、時には飛び石伝いに対岸に渡ったり。どちらを歩いても今が盛りと花々が咲き誇っていました。最高気温は29℃と言うことで日陰の休憩を度々とりました。

新小金井橋で右岸に折れて都立武蔵野の森公園のはらっぱに2本寄り添う大きなトウカエデの木の下で、みんなで待望のお弁当。

昼食後は東京都の公園、街路樹などの植木の苗圃の森林を歩き、再び野川に沿います。西武多摩川線の鉄橋を野川と一緒にくぐると、ここからは都立野川公園。右手に広い芝生広場が望めました。

桜橋から自然観察園に入ります。ここは武蔵野の植物と保存と観察を目的に開園し、バードサンクチュアリを併設しています。めぐらされた木道を30分ほどで足早に歩き、隣のわき水ひろばで解散し、それぞれ帰路に向かうバス停に歩きました。

櫛橋まで21橋を通過しましたが、渇水期のためどこでも子どもたちや親子連れがじゃぶじゃぶと、川の中を歩いているのが印象的でした。

参加者40人。ワイズ関係参加は、石井、河原崎、吉田(東京西)、中澤正子、藤江喜美子(東京たんぽぽ)、樋口順英(東京グリーン)、関喜一郎(元石巻広域)

(吉田明弘)

☆☆☆ インタビュー ☆106☆
 ピーター
 マウントフォードさん
 甲府クラブ
 * * *



—ピーターさんが甲府クラブに入会された時のブリテンを仙洞田安宏さんに見せてもらいました。入会式は2008年4月8日の例会。1955年、英国生まれ、来日18年目、山梨県立大学講師とありました。

「ハイ、その通りです。」
 —イギリスはどちらの出身ですか。

「日本でも鉄の街として知られているシェフィールドの近くです。シェフィールドは日本の川崎市と姉妹都市です。父は地方新聞に勤務、姉がいました。幼い頃は普通のわんぱくボウヤだったのでは」
 —何か思い出がありますか。

「ありふれた思い出かも知れませんが、冬の寒さと、雨の降ったときにいつも服がびしょ濡れになったことを覚えています」

—小学校では、どんな学科が得意でしたか。

「小学生の頃は、嫌いな科目はありませんでした。他の子と比べて数学は得意だったかも知れません」

—大人になったら、何になりたいと思っていましたか。

「将来の夢は育ちながら変わってほしい。私の場合は、小学生の頃は探検家と科学者になりたかったです。中学、高校では、探検家と博物学を合わせた大自然に興味がありました。今もやっている登山のモチベーションの一つ

です。」

—大学での専攻は。

「専門家の時代には、博物学はあまり評価されないもので、専攻を物理にしました。」

—日本への興味は。

「特にありませんでした。しかし、あの頃日本の電気製品、カメラなどが店頭に出始めた時でした。新幹線と合わせて日本のイメージは優れた技術の国でした。大学卒業後、フランスの石油関係の会社に入社しました」

—日本へは。

「初来日は、仕事で旧ソ連へ行く途中でした。お盆の時期で、蒸し暑さはびっくりしました。その後、新潟と北海道へ派遣されました」

—甲府クラブへの入会は。

「元会員の大堀廣さんに近所の駐車場にいたときに英語で話しかけられ、親しくなり、誘われました」

—なんと言われましたか。

「いろいろ教えてもらったはずですが覚えていません」

—YMCAはイギリス生まれでしたね。すぐになじめましたか。

「知らない人は多いので、慣れるのに時間がかかりました。当時甲府クラブには50人近いメンバーがいました」

—イギリスには、クラブ文化があると聞いていますが。

「日本と同じで様々な目的の手芸、スポーツ、ボランティア活動などのクラブがあります。イギリスのクラブでは娯楽が中心です。会員としてクラブはお楽しみと社会の広場の一つです」

—ピーターさんは、入会5年目の2013-14年と2018-19年度に会長をされていますね。日本ではこれまで欧米人の会長は3人ぐらいでしょう。やはりリーダーシップのとり方に違いがあると感じられますか。

「リーダーシップはどこでも同じだと思います。目標を設定して、達成する道を解いて、皆を起

こさせてその目標に向かって働きます。残念でしたが、このこと行なうのは、私は得意ではありません」

—クラブ農園を熱心にやられていますね。

「最初はメンバーが大勢集まっていたのですが、早朝なもので、仕事を持っている人にはだんだん無理になってきました。今はクラブの活動から外して、会員の仲間でやっています」

—奥さん、内藤いづみさんは在宅ホスピスを提唱されておられますが、開業されているのですか。

「イギリスで学んだことを生かして働いています。」

—さっきピーターさんは山に登られると言われました。『山はあっても、山梨県』で良かったですね。

「主に日帰りですから南アルプスなど、登っていないところが沢山あります。今は『山梨100名山』を目指していますが、何度も行く山があるので、まだ80山くらいです」

—ワイズに期待することは。

「インターネットと携帯電話に加えてコロナ禍は皆の社会関係と環境を大きく変えました。この新しい社会に、クラブは、人々、特に若い人のニーズに添えているのでしょうか。甲府クラブが例会で歌うクラブソングの一節に、『富士の嶺高く 夢のせて 集える人と肩組んで』とあります。ワイズメンズクラブは、21世紀に『集える人と肩を組める』環境づくりが大きな課題だと思います」
 —何か大切にしている言葉がありますか。

「中学生頃、冷戦時代でしたが、学校でルーズベルト米大統領の4つの自由の演説を聞かされました。4つの自由とは、言論・表現の自由、信教の自由、欠乏からの自由、恐怖からの自由。この4つの自由は、今でも世界中が目指すべきです」

—有難うございました。

(吉田明弘)

思い出を辿って⑥ イエスの温もりにふれて 村野絢子

1945年8月6日原爆の落ちた時、中澤愛子さんは、広島路面電車の中で被爆しました。病床の愛子さんを広島女学院の川崎信市牧師は看病し励まし続けました。その後2人は結婚し4人の息子に恵まれました。

川崎信市牧師はいくつかの教会を牧会された後、郷里広島の上の教会を建て、伝道をされました。その教会は会員が15人、目の不自由な方がほとんどで健全者は2人でした。毎週配る、そこで話す説教のプリントと、小さな手紙が「イエスの温もりにふれて」となりました。表紙絵は愛子さんの妹松尾純子さん、カットは

姉木村玲子さんが描きました。

川崎牧師は、盲人から、レプタ2枚の自分の全財産をイエス様に捧げたやもめの女性から目を離さないイエス様の温もりを伝え続けています。

木村玲子さんは夫君木村清さんと浜田山の社宅から、和泉教会に通っていました。木村清さんは三井物産の経理担当役員で、海外勤務が多かったのですが、ニューヨーク勤務の時、両親を訪ねて滞在中の次男の真さんを突然亡くされました。お2人をお慰めする言葉も無く、長男聡さんの奥様寿子さんと泣くばかりでした。荻窪・立川・北柏と住まいを変え、広島廿日市の山の上のキリスト教の老人施設に住まわれました。

玲子さんは、満州で仕事をしていらしたお父さまのお世話を為

に満州に行かれ、敗戦後、苦勞して引揚げ帰国しました。清さんは海軍の兵隊として南方に行かれましたが生還されました。

今、ロシアとウクライナが戦争中です。多くの悲しみのニュースが伝えられますが、弱い立場の人々、悲しみの中にいる人々にイエス様のまなざしが注がれていることを信じて祈りたいと思います。



川崎信市牧師の著書の表紙

他クラブ訪問記

富士五湖クラブ 神谷幸男

3年ぶりに富士五湖クラブが主催するCS事業「第11回障がい者フライングディスク競技大会 in 北麓」に「バンザイ隊」要員として参加した。日時は2022年5月7日(土)午前、場所はいつもの会場、富士吉田市パインズパーク。コロナ禍のため一昨年は中止、昨年は小規模に屋内で行った由である。

当日は素晴らしい快晴、9時にスタッフ集合、会場設営、スタッフ打ち合わせ等を行い10時30分開会式、10時45分競技開始、始投式は長谷川あや子あずさ部長、荻野清あずさ部CS事業主査、佐藤重良次期東日本区理事が競技、3サイトでそれぞれ行った。

競技はアキュラシー競技のみ、障がいの程度によつて的(直径1mほどの輪)までの距離が違う競技サイトで11チーム(1チーム7人、4~6人もある)で行われた。競技者は7団体71人。約30分にわたり熱戦が繰り広げら



優秀競技者の栄誉と健闘を祝して「バンザイ三唱」キャリーバッグを携えている人が優勝者、ベスト着用者はスタッフ

れた。チーム毎の競技が終了次第表彰が行われ、全員に記録証と参加賞(クッキー)、1~3位者にはメダルが贈られた。そこで「バンザイ隊」の出番。健闘と成績を祝して競技者、介護者そして「バンザイ隊」がリードして共にバンザイ三唱、皆の笑顔が見られて楽しい。

全競技が終わって12時ころから閉会式。先ずは表彰式、最多得点賞、最多参加団体賞等、富士五湖ワイズ賞、富士吉田市長賞、富士吉田市民会議長賞がそれぞれ贈られた。続いて、長谷川あずさ部長のあいさつ、山梨県障害者フ

ライングディスク協会役員の講評、記念撮影をして本大会は終了。

地元の富士吉田市、山梨県障害者フライングディスク協会、総勢約120人を動員するこの大会を開催する富士五湖クラブのCS事業に参加して、自分にとって消化しきれないエネルギーをもらって会場を後にした。

編集後記

空は雨模様でも私たちの心は晴れています。原稿を寄せてくださった皆さん、有難うございました。ウクライナへのロシア軍の侵攻は4か月になろうとしています。ウクライナ市民の避難民はさらに増えるでしょう。私たちは避難している人々の痛みを心にかけています。そして何とかしたいと思っています。その思いをYMCAが具現化しています。そのYMCAに少しでも資金面で支援しましょう。(SK)